2-1 求められるパソコンの性能

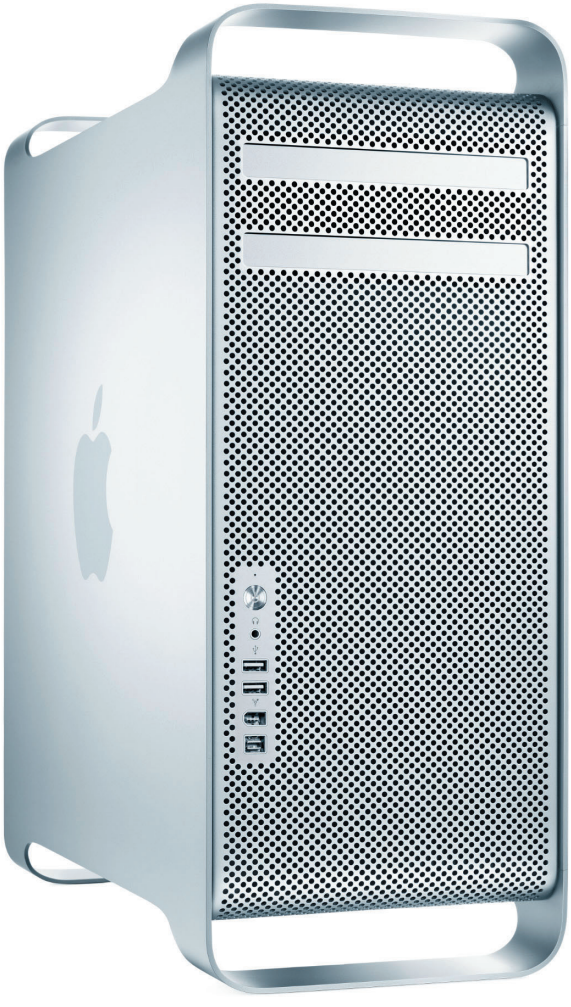
画像処理には高性能なパソコンが必要だとよく言われるが、それは3DのCGアニメーションなど動画を作る場合だ。スチル写真——静止画像を扱う場合、びっくりするような高性能は要らない。どの程度ならよいのか見ていこう。

Macの場合、現行のデスクトップ機なら性能は必要にして十分だと言える。ただし、たくさんの画像を同時に開いて編集したり、A2判以上の大伸ばしをするなら、メモリは1ギガバイト以上あったほうがいい。

Macのデスクトップ機では、最低でも1ギガバイトのメモリが搭載されているため（2008年1月時点）、通常の使用なら特に問題はないだろう。静止画像なら1ギガバイトもあれば作業がスムーズに行える。数年前の旧機種は256～512メガバイトが標準だったので、メモリを増設しておいたほうがいい。

たくさんの画像を保存する場合、ハードディスクの容量は80～160ギガバイトくらいは欲しい。これも現行機種なら大丈夫。古いMac miniにはハードディスクが40ギガバイトの製品もあるが、たくさんの画像を保存するならUSB接続の外付け型ハードディスクを準備しておきたい。

具体的な機種では、最高峰のMac Proなら申し分ない。液晶ディスプレイ付きのiMacや小型で場所を取らないMac miniもコストパフォーマンスが高く、十分に使える。PowerPC G4以前のCPUを搭載していたノートパソコンはディスプレイの解像度が低く液晶の色再現性もイマイチだったので、画像処理には向いていない。現行のMacBookやMacBook Proなら画面の狭さを我慢すればそれなりに使える。



プロの画像処理にはやはりMacを使いたい（写真はMac Pro）